



第14回ニューイングランド大会・地域分科会報告

・第14回日米草の根交流サミット・ニューイングランド大会

前号では大会全体をお伝えしましたが、今号はホームステイ、地域分科会を中心にお伝えします。

第14回日米草の根交流サミット・ニューイングランド大会では、ニューイングランド地方全6州において地域分科会10箇所で行われました。ホームステイは、例年より一日長く3泊4日となり、7月16日～19日となりました。それぞれの地域分科会で、プログラムを行ったり、ホストと過ごしたりと、参加者は有意義な時間を過ごせたようです。



ニューイングランドとは

ニューイングランド地方はアメリカ合衆国北部に位置し、ヨーロッパからのメイフラワー号が到着し、民衆が自由な地を求めて移住した地域です。また、アメリカ合衆国独立戦争が行われた地でもあり、今もその史跡を見ることが出来ます。古くからニューイングランドに在住する人々は自分達をヤンキー(Yankee)と呼んでいます。ヤンキーとはアメリカ合衆国ニューイングランド地方の人のことで、アメリカ合衆国の独立に関わったことを誇りに想う意味も込められています。

ニューイングランド地方の盛んな産業は漁業で、どの地域のキーパーソン達も、地域特産の食べ物を訪ねると“シーフード”と答え、特に“ロブスター”をお薦めしていました。“クラムチャウダー”は絶品で、ニューイングランド内でも州や地域によって味は異なりました。

自然は豊かで、四季もはっきりしています。夏は避暑地として有名で、秋は紅葉、冬はウィンタースポーツが楽しめるところです。

・地域分科会概要

地域分科会はホームステイが中心で、小学生から退職者まで、年齢関係なく全員がホームステイします。テーマごとにプログラムが組まれている分科会もあれば、ホストファミリーとステイを満喫する分科会もあります。下に書かれているのは、分科会が開催された地域と内容です。



- メイン州、バンゴール・・・メイン州立大学見学、講義を受ける、国立アケイディア公園見学などし、ホームステイ
- バーモント州、バーリントン・・・ダートマス大学見学、ベン&ジェリー・アイスクリームを食べるなどし、ホームステイ
- マサチューセッツ州、セーラム・・・魔女博物館見学、美女と野獣観劇、市内見学などし、ホームステイ
- マサチューセッツ州、ポストン・・・アメリカ合衆国独立戦争の歴史を色濃く残す町でホストと過ごし、ホームステイ
- マサチューセッツ州、コンコード・・・ニューイングランドらしい町並みの町でホストと過ごし、ホームステイ
- マサチューセッツ州、アマースト・・・有機農業をテーマに農業地、マーケット訪問、マサチューセッツ州立大学見学し、ホームステイ
- マサチューセッツ州、フェアヘーブン・・・万次郎が過ごした町、ホイットフィールド船長が住んだ町でホストと過ごし、ホームステイ
- ロードアイランド州、ニューポート・・・黒船祭見学、マンション・ツアー、バーベキューなどし、ホームステイ
- プロビデンス・・・黒船祭参加、ニューポート見学などしながら、ホームステイ
- コネティカット州、ファーマントン・・・マーク・トゥエイン博物館訪問、野外コンサート、ポット・ラック・パーティーなどし、ホームステイ
- ニューハンプシャー州、セント・ポールズ・スクール・・・21世紀の理想教育をテーマに、授業・学校見学とホームステイ



・参加者からのメッセージ

ニューイングランド大会後、参加者から多くのメッセージ、感想、写真を頂きました。それらは大会記録書に掲載させていただきました。ここでは、その一部を紹介いたします。

今大会で初めてホームステイした方、初海外旅行だった高校生、いつもは日本でホストファミリーとして御協力頂いている方、今回の訪問でジョン万次郎への知識を深めた方などからニューイングランド大会へのメッセージ、感想が掲載されています。



大会初参加の女性より『サマースクール体験』

まったくの無知状態で一人で参加しました。往路ワシントン空港の乗り継ぎでは多少心細い思いをしましたが、無事ボストン到着、その頃には友達もでき、現地日本人協会の方、同行して下さったボランティアの方々の心のこもったお世話のお陰で何もかも安心していられました。特に分科会では素晴らしいホストファミリーに迎えられて、したい事、行きたい所全ての願いを叶えて頂き大感激でした。ホストマザーがケンブリッジとタフツで教えていらっしゃる関係でタフツのサマースクールに思いがけなく席を頂き聴講できたのはこの上ない喜びでした。十人のその級ではスペイン、フランス、中国、韓国、日本からの生徒が子供の肥満とイラク問題について話し合いました。夫々の国の立場から若者達が独自の意見を披露し興味深い授業でした。タフツの他ウェルズリー、ケンブリッジ、ハーバード、MIT等大学の立派な校内の緑の豊かさには驚かされました。

ホストファミリーとは別れの時に思わず抱き合い涙してしまう程打ち解けました。六十六才での初体験は忘れ難いものとなりました。関係して下さった全ての方々に心からお礼申し上げます。

大会初参加で、初の海外旅行だった高校生より

初めは、右も左もわからないままアメリカに行くという感じでした。お金の払い方もわからないし、もちろん英語もしゃべれない。着いていきなりホームシックになりそうでした。しかも最初の2日間はホテルということでほとんど日本人としかコミュニケーションもとれなかったのが、いきなりアメリカ人の家庭に入って行くというそのギャップにますます不安がつのりました。

しかし、ホストファミリーは優しくしてくれ、最初は簡単な言葉で話してくれて親しみやすかったです。余裕がでてくると、自分から話しかけたりして、ホームステイを満喫できました。日がたつにつれて、同年代の人と仲良くなって、日米間の類似点や相違点を深く知る事につながりました。ホストファミリーには、感心することばかりでしたが、言葉で言えといわれてもなかなか表現しにくいです。

この経験というものは何にもかえられないことだし、何よりも大切なことだと思いました。この大会に参加して、価値感も変わったし、ほんの少し英語がしゃべれるようになったり良いことだらけでした。参加できて本当に良かったと思っています。



写真はイメージであり、本人ではありません

過去大会でいつもホストを務める御夫婦より

『ホームステイの思い出』

同年代のご夫妻が、私達のホストでした。彼等はとても忙しく、夜の仕事に出かけたり、次の日には、親しい友人の急死で、その葬式に参列したりと、私達と一緒に行動は余りありませんでしたが、その存在はとても大きく、長い時間一緒に過ごしたような気持ちになりました。彼等のもてなしの心は、至る所に表われて、私達が自分の家に居るような気づかいとケバケバしない普段着の生活を与えてくれました。

3日目の夕方、ニューヨークに住んでいる娘さん家族が帰って来ました。黒船祭、最後のイベント、花火大会が催され、私達はホスト家族と一緒に海辺に歩いて行きました。大きい音と、とても美しい花火を見ながら、この平和がいつまでも続くようにと祈りました。

この3日間の思い出は私達夫婦の大切な宝物になるでしょう。日本ではいつもホストになってた私達、たまにはホームステイもいいもんだネ。いろいろ勉強になりました。

ありがとうございました。

学校教師の参加者より

ファーマントン分科会は、キーパーソンの御夫婦のお陰でとても有意義に過ごすことが出来ました。ホームステイの注意やファーマントンの歴史を前もって知っておくことは、ホストファミリーの会話の中で大変役に立つことが多かったです。

私のホストは、元学校の先生ということもあってか、ファーマントンに関してご自身でもかなり下調べをして下さっていた様でした。

地域分科会全体としてみなさんが協力して色々計画をして下さり、クラシックの野外コンサートやキーパーソン宅でのポット・ラック・パーティーなど日本では体験できないことだらけでした。そしてホストともかなり本音で日米の違い、考え方等話せる相手でしたのでこれからも日本人とは違った一面だと思いました。交流サミットの方のマッチングも良かったのだと思います。これからも交流を続けていければと思っています。

(学校の英語授業で、万次郎とホイットフィールド船長が教科書題材として取り上げられています。生徒達に彼らの出会いや写真を見せてあげ、今回の旅がとても役立ちました。生徒達も実在の人物とっていなかったようで、感動していました。ありがとうございました。)

初ホームステイの男性より「日米草の根交流サミットに参加して」

「百聞は一見に如かず」。万次郎を絶海の孤島から救助したジョンハウランド号の母港ニューベッドフォード港を訪ねて、ホイットフィールド船長の墓を詣でたり、万次郎が学んだオックスフォード校を見学したり、往時を偲ばれる家並みがつながるチェリー通りを散策したり、波瀾万丈の生涯を送った万次郎の一端に触れた思いだった。

井伏鱒二「ジョン万次郎漂流記」の主人公として心を躍らせながら読書に耽った少年時代。それがきっかけとなって日本の開国や文明開化にもつながる巨大な足跡を残した偉人だとわかったのは、恥ずかしなげらげらと後からである。それにしても、国境を越えた友情の尊さは勿論、誠実、好奇心、高い志、努力等の大切さの数々を教えてくれたが、われわれはこれらのことを後世に伝えていかなければならない。万次郎ゆかりの地を訪ね改めて感じた。石油が発見されるまで、捕鯨がアメリカの主要産業だったこと、捕鯨船団の母港としてだけでなく、それに関連して造船や綿織物産業の中心だったことも、現地の「捕鯨博物館」展示の文物に触れて理解できた有り難かった。メルウィルの名作「白鯨」の舞台もニューベッドフォードだ。乗組員の会話に「日本を開国させるのは、我々の任務だ」という意味のセリフが出てくるが、日本の開国の前夜をものごたるもので、世界の動きとの連動の中に日本の歴史もあることを示している例である。

マサチューセッツ州ピーボディとオプショナルではバージニア州のノーフォークでホームステイを通して、大衆社会のアメリカ実像の一端に触れることができて有益だった。知人友人を相互に招いてホームパーティーを何回も開いてくれたが、強く印象に残っているのは、アメリカ人のお人よし、明るさ、素直さ、合理性、親分気質、自信にみちた自己主張等であった。前者の州では、子供が全部家を離れたので、我が家はエンブティーネストといながら奥様は笑った。かたわらで微笑んでいた夫は、趣味は、野生動物の観察とのこと。どこかの山野に出かけるのかと思いきや、郊外にある家屋の裏手の縁側に、餌としてヒマワリの種子等を入れた色々な容器を並べ、飛んでくる鳥の数や種類を観察するのでした。また、殻付きのピーナッツを置いて、リスがその餌を両手(前足)で持ちあげて食べる様は心なごむ光景であった。まれには狸も現れるとか。鳥類図鑑などをそばにおいてあったが、夫婦で調べ合うことも屢々あるという。良い趣味とはこういうことだと教えられた。

生涯学習の社会施設の充実ぶりにも感心した。立派な図書館、博物館、美術館、野外音楽堂、体育施設などどの充実ぶり。「美女と野獣」のミュージカルの公演につれて行ってくれたり、夏季の土曜日に開催されているというコンサートにも案内してくれた。「星条旗よ永遠なれ」の国家から始まって、ポピュラーな名曲の数々を演奏し、勇壮なマーチ「双頭の鷲の下に」で締めくくったが、途中、演奏曲の旋律に合わせて手を合わせ肩を組み合せてダンスを始めたほほえましい老夫婦も散見された。

ホスト夫妻から「空中散歩はいかが」と誘われ、隣のニューハンプシャー州までセスナ機に搭乗した思いでも忘れることはできません。ホストの友人が空港で出迎えてくれたが、運転してきた車は何と1928製のフォードA型だったのには驚いた。「構造などは簡単なので故障しても自分で修理する」と屈託がない。夫婦で農業を営んでいるというが、頂いた名刺では農業コンサルタント。自分で体験しないものを他人に指導することなど不可能と、きっぱり。米国人のプラグマチズムに触れた思いだった。それから、自宅の玄関前に楕円形の3本レールを敷いて、警笛を鳴らしながら、ミニの客車、貨車それに家畜車を一斉に走らせ眺めているのが大好きだという。どこか子供ばいところが魅力的だったが、趣味とは、自分で工夫して作るものだと教えられた気がする。

オプショナルツアーではワシントンDC郊外のノーフォークに滞在した。初日はワシントン在住の女性の案内で、ホワイトハウス、議事堂、最高裁などを見学後、ナショナルギャラリーでは、数々の泰西名画を鑑賞できた。市街を歩き交う車は日本車が多いのに驚いていると、彼女は、車を含めて日本の対米輸出は全輸出量の3割にも及ぶ事実を、日米関係を論ずるとき忘れてはならないと思う、述べていたことが頭に残った。ホームステイであてがわれた部屋まで案内し、ドア前で靴を脱くように指示された。理由を訪ねると、その方がサニタリー(衛生的)だという。玄関でないところが中途半端だと思ったが、そうするアメリカの家庭が増えているらしい。日本の影響かもしれない。日本人の平均寿命は世界一で、食べ物の原因だとすれば日本食を食べて長生きしたいと言う。当地に住む日本人からレシピーを習っている由。

国の広大な渡り鳥の保護地域を案内してくれたり、事前の調査で趣味の欄に書いていた釣りに合わせて、海岸の投げ釣りにも誘ってくれたり、大変気を使ってくれた。幸運にも2匹釣り上げたが、「ノーフォーク海岸で釣り上げた最初の日本人だ」とジョークを飛ばしていた笑顔が忘れられない。

当地には「大会」参加者が4人滞在したが、3家庭で順番にホームパーティーを開いてわれわれを暖かく歓迎してくれた。滞在地の最後の夜は、陶芸家のホスト宅であったが、同行の女性が茶の湯を披露してくれたのも印象に残る。長く続いた賑やかなパーティーが終わり、釜からそれぞれが記念に造った作品を取り出す頃は、夜も更けていた。広い庭には飛び交う数多の蛍の光景をみながら、ノーフォークの人々の心と同じく、川の水もきれいにちがいないと思った。多くのアメリカ人と交流し、生活に触れながら、学ぶことが多い「大会」であった。

「日米草の根交流サミット大会」よ、ありがとう。

大会初参加の男性より「ボストン・クラブでギブアップ!! ~ダック・ツアー編~」

時は西暦二〇〇四年七月、ノストラダムスの大先生は歴史的大ボラ吹きだと判明してから、地球は平和になることなく五年もの歳月が流れようとしていた。銃弾の音は絶えることなく、今も地球上の何処かで断末魔の叫びを聞いている。悲しみの涙は濁ることなく、愛飢えし者たちに一瞬の潤いを与えるかのような歯車の狂いに僕は、いまや慢性的となった不安とともに、ボストンに降り立ったのだ。過激派武装グループに捕らえられたときのシミュレーションはバッチリ、たとえこの身が引き裂かれようとも「フリーゲーム!!」心はメル・ギブソンだ。そして平和の使者の僕はボストン観光の金字塔、ダック・ツアーへと足を運んだ。アメリカに着いてから、気付いたことがある。僕は英語がまるでダメだということだ。飛行機でもコーヒーを頼んだらコーラが出てきた。それともう一つ、僕の感じていた不安は世界情勢のことなどではなく、英語に対してのものだということ。その思いはダック・ツアー船長の立てた親指に凝縮された。車は市内を駆け巡り、そのままザンブと海へ入ってゆく。道路から見ても海から見ても、ボストンの街は美しい。船長は何を言っているのかサッパリだけれど、それでもいいんじゃない?と思いました。グワグワッ



TOYOTA

AEON

味ひとすじ

永谷園

・ホストファミリーからの感想

各地方でホームステイを受け入れて頂いたホストファミリーからの感想を一部紹介します。
100以上の家庭がホームステイを受け入れてくださり、草の根が更に広がりました。



T. Family

We enjoyed having our guests experience our extended family, meal times and daily life.

Please include us in the next summit.

(ゲストを持つことで、食事の時や日常生活も、家族が増えたように感じ、楽しみました。どうぞ次のサミットに参加させてください。)

S. Family

The most fun we've had in years. We would love to do it again. Both our daughters would love to visit Japan.

(この数年間に楽しかった中でもっとも楽しかったです。もう一度是非やりたいです。両方の私の娘達も是非日本に行きたがっています。)



M. Family

The summit, and the two other exchanges we have experienced, have enriched our lives. We very much enjoy meeting people whose experiences are different from ours, and becoming friends. Thank you!

(私達が経験した、サミットと他二つの交流は私達の生活を豊かにしました。私達は経験の違う人たちと会い、友人となる事をとても楽しみました。ありがとう!)

R. Family

This has been a wonderful experience, even better than I expected, and I expected a great much understanding place if everyone had experienced like this.

(これは私が予想していたよりも素晴らしい経験で、みんながこのような体験が出来れば、お互いを理解するには、もってこいの場所だと思いました。)

X. Family

This is a lovely way to learn about each other in very comfortable setting. The activities that were so well planned added a pleasant way to get acquainted and spend time together. Well Done- thank you for this opportunity.

(とても心地よい環境でお互いを学び合うとても素敵な方法です。この活動は、知り合いを増やし、共に時間を過ごすに心地よい方法が組み込まれていて、よく計画してありました。よくやったこの機会に感謝します。)



お芝居の御紹介

日米交流150周年記念公演 / 文化庁平成16年度国際芸術交流支援事業「二国間」凱旋公演

劇団俳小 “ ジョン万次郎外国見聞録 ”

制作 / 隈元勇治

舞台監督 / 勝山一夫

日時 : 2004年12月11日(土) 18:30開場 19:00開演

12日(日) 13:30開場 14:00開演

場所 : 前進座劇場

(JR中央線・京王井の頭線 吉祥寺駅公園口より徒歩10分)

米国公演 : 2004年 11/10・11 ニューヨーク(The Kaye Playhouse)

11/13・14 ニューベッドフォード

(Fairhaven High School Theater)

11/17・18 ハワイ(Mamiya Theatre)

STORY : 今から150年以上前、土佐清水の漁師の息子15歳の万次郎は漁に出て遭難し、アメリカの捕鯨船のホイットフィールド船長に救助され、船長の故郷マサチューセッツ州ニューベッドフォードのフェアヘブンに連れて行かれ家族の一員として5年目の教育を受ける。John Mungにとっては初めての外国での教育は一筋縄ではいかず、別の教会を余儀なくされる。一等航海士の資格をアメリカの文化の洗礼をうけて帰国となるが、当時厳重な鎖国の日本への入国は困難を極める。ハワイに沖縄にと寄航しながらやっとの思いで日本の土を踏むことになるが、罪人扱いされたり幕臣として徴用されたりと徳川幕府に翻弄される事になる。そこで彼は姿をくらまし、大騒動となり、John Mung探しははじまる。一体どこに逃げたのか、一体誰が本当のJohn Mungなのか? John Mung探しをしているうちに、日本の歴史の真相が見えてくる。それは一体…